

部門長からのご挨拶

平成 30 年度 電子・情報・システム部門長 神保泰彦(東京大学)



研究成果を論文として発表する、大会で講演して同じ分野に興味を持つ仲間と討論する、研究会では実験のノウハウまで含めた情報交換をする、それが学会というコミュニティに参加する意義だと思います。

電気学会論文誌 C では、月ごとにテーマを設定して特定の分野の研究開発状況を俯瞰する解説記事と研究論文からなる特集を企画しています。分野ごとに組織している技術委員会（電子材料・デバイス、光・量子デバイス、電子回路、通信、システム、情報処理、知覚情報、生体医工学など）が特集テーマを提案し、編修委員会で意見を出し合って具体化します。毎年 7 月号は C 部門大会特集号、部門大会で発表した研究成果を論文として仕上げる機会として設定しています。東海支部、関西支部で開かれている電気工学関連学会の連合大会についても同様の特集を行なっています。C 部門誌では「査読コメントが著者が研究を進めるための有益な示唆になる」ことを心がけて査読プロセスを進めることとしています。特に今年度は「論文投稿から著者に査読コメントが戻るまで 2 ヶ月以内」を全ての投稿論文について達成することを目指します。優れた論文を「優秀論文賞」「論文奨励賞」として表彰する制度も設けていますので、是非積極的な投稿をお願いします。

部門大会は、幅広い分野の研究に携わるメンバーが一堂に会する場、自分の研究成果を発表すると同時に、専門から少し離れた分野の動向に関する知識や情報を収集するとても良い機会になります。今年は 9 月 5-8 日、北海道大学で開催します。435 件の講演の他、ビットコイン等で話題を集めているブロックチェーンの技術的背景を解説する先端技術セミナー、英語で学会発表する際の実用的なテクニックに関する講習会、学生と企業の若手技術者との交流会など、参加者にとって「楽しくてためになる」企画を多数用意しています。技術見学会では NHK の連続テレビ小説「マッサン」の舞台となった余市蒸留所を訪れます。

研究会は技術委員会ごとに企画、同じ研究分野に興味を持つメンバーがより実際的な研究ディスカッションをする場になります。現在 C 部門で活動している技術委員会について

http://www.iee.jp/eiss/wp-content/uploads/eiss/misc/TC_pamphlet.pdf

に資料を掲載、活動内容やコンタクト窓口などについて説明しています。

学会活動に参加してよかったと思える運営を心がけてまいります。ご意見、要望などを是非お寄せください。